

## 第280回サロン9条例会(2016.9.20)報告

### 久保田弘信「The Truth 伝えきれなかった真実 2016」(DVD)

台風が近づき雨が激しく降る中、12名が参加しました。(そのうち2名は初参加)

11月3日の「平和のつどい」で久保田弘信写真展「難民キャンプ村から」のフロント展示が予定されています。それに先立ってのDVD鑑賞です。

アフガニスタンからイラク、そしてシリアまで、大垣出身のフォトジャーナリスト久保田さんが15年間取材をし続けた記録映像です。過去のDVDに収録できなかった映像も含めて、国・時間を超えてまとめた作品です。

取材は9、11直後、アフガニスタン、パキスタンから始まりました。米軍と有志連合による空爆・誤爆で犠牲になった市民。戦闘が終わった後に残ったクラスター爆弾を処理する、戦闘で手や足をもぎ取られた兵士。アフガニスタンからパキスタンへ流入した500万人を超える難民。彼らの多くは国連に発見されず、支援をうけることができない多くの難民でした。大量破壊兵器疑惑を掲げたアメリカの対テロ戦争「イラクの自由作戦」。米軍・有志連合によるイラク空爆。久保田さんが宿泊していたホテルのすぐそばで行われた大空爆。命の危険をかえりみずの取材はイラク戦争の現状をリアルに伝えます。この空爆による民間人の被害者は8万人以上といわれていますが、正確にはわかっていません。戦後のイラクで生まれたのは米軍に対する反感、電気も水もない生活、IS。そして大量のイラク難民。難民はのころまだ治安の良かったシリアへと流入。しかしシリアで内線が勃発。200万人を超えるシリア難民がヨーロッパをめざします。でも、現在ヨーロッパのどの国も受け入れを拒否、あるいは制限しているのはご存知の通りです。

現在の混迷を深める現実、難民問題の発端は、すべて9、11後のアメリカによるアフガニスタン空爆が発端であることがこのDVDからよくわかります。

悲惨な現実を伝えるなか、久保田さんはいつもカメラを子どもたちに向けます。そして取材の中で困っている人がいると支援のために危険な場所へも入ります。こうして久保田さんの取材は、行く先々で出会う人たちとの交流により豊かになります。

最後に「難民の子どもたちの母国はどこになるのか・・・祖国？ 新しい国？ 大切な地球市民である子どもたちには教育が必要。それを支えるのは国際社会の責任」と、久保田さんは訴えます。

DVD鑑賞のあと、短い時間でしたが、参加者が「現在の状況の歴史的流れがよくわかった。もっとこの事実を知らせたい」「こういう紛争地に自衛隊が派遣される。他人事ではない」「久保田さんの常に取材地の家族を気にかけている姿勢が素晴らしい」「久保田さんの活動がよくわかった」「9条の活動がいかに大切かわかった」「中村哲さんのアフガニスタンでの活動が頭に浮かんだ」など、一言ずつ感想を述べあいました。

参加者はいろんな思いを胸に嵐の中、急いで帰宅の途につきました。